

こ ゆめ いけだせんせい どうわ
「子どもに夢を！——池田先生と童話」

1 枚目 / 少年とさくら (7枚目の絵の裏に貼る)

「戦争がおわって まもないころでした。太一少年は おかあさんと たったふたりでくらしていました」との書き出しで始まる池田先生の創作童話『少年とさくら』。

戦争で父親を亡くし、戦後の混乱期に生きる太一少年は、ある日、丘の上でさくらの世話をしているおじいさんと知り合いました。さくらの木が冬を越せるよう準備するおじいさんを手伝い始める太一少年。おじいさんは太一少年に語りかけます。

「平和な社会、戦争のない社会をきずくには、きみたち少年の成長が必要なんだよ」と。

空襲の火にも、冬の寒さにも耐え、さくらは春に美しい花を咲かせました。(『少年とさくら』より)

2 枚目 / 平和への思い (1枚目の絵の裏に貼る)

池田先生の青年時代、それは、世界中が戦火となった第二次世界大戦の真ただ中でした。突然やってくる空襲の恐怖、戦争にいったまま帰ってこない家族——。

そんな悲惨な戦争時代に見た桜の思い出を、池田先生はこう綴っています。

「戦時中、私の故郷・大田でも、空襲によって多くの木々が灰となった。(中略) 荒涼たる風景ではあったが、不思議とその一角に、幾本かの桜が焼け残っていた。そして戦後、再び桜は芽吹き、まるで行き交う人々を励ますかのように万葉と咲き薫った。その光景を目にした時の、母の安堵した表情——。私は決心した。将来、日本中に、桜の木を植えよう。(中略) 人々の心に平和の希望を広げていこう、と」(池田名誉会長の世界との語らい 第2回 ワンガリ・マータイ博士)

3 枚目 / 若き編集長として (2枚目の絵の裏に貼る)

戦後、戸田先生の経営する出版社に入社した池田先生は、『冒険少年』(のちに『少年日本』)という少年雑誌の編集長になりました。

池田青年は「少年たちが読んで体中に『正義の力』がみなぎってくるような雑誌をつくりたい——」とのあふれ出る情熱で、一流作家や画家たちに執筆を依頼し、池田青年自らも伝記などの作品を執筆しました。

しかし、戦後の混乱期で数多くの出版物が姿を消すなか、『少年日本』も例外ではなく、志半ばでの廃刊が決定しました。池田先生は当時を振り返り語っています。

「少年たちと夢を語り合った時期は一年足らずで終わった。だが、その挑戦は、のちに二十作を超える創作童話等の執筆として続くことになった」

4枚目／**童話執筆への思い**（3枚目の絵の裏に貼る）

「将来、日本中に、桜の木を植えよう。（中略）人々の心に平和の希望を広げていこう」
池田先生は若き日の誓いのままに、1974年（昭和49年）に初の創作童話『少年とさくら』を発表しました。以来、20作品をこえる児童向け文学を執筆してこられました。童話の執筆に込めた思いを池田先生は語っています。

「少年少女の心の退廃は、人類の衰退に通じよう。ゆえに私は、子供たちの心の大地を耕し、種を蒔こうと思った。正義の種、勇気の種、希望の種、努力の種、そして、優しさの種を。その挑戦の一つが、童話の執筆であった」

5枚目／**世界中で愛読される池田先生の創作童話**（4枚目の絵の裏に貼る）

1990年（昭和65年）には、池田先生の童話に深く共鳴した、世界的童画家ブライアン・ワイルドミス氏が挿絵を描いた『雪ぐにの王子さま』が発刊。続けて、『さくらの木』『お月さまと王女』『青い海と少年』の合わせて4作品が出版され、イギリス・日本をはじめ世界中で大きな反響を呼びました。

6枚目／**反響を呼ぶアニメ放映**（5枚目の絵の裏に貼る）

池田先生の創作童話を原作とするアニメは、これまで22カ国で放映されました。フィリピンでは12作品を大々的に放映。あまりの高視聴率に新聞で「驚くべきヒット番組」と報道されました。また、セルビア・モンテネグロ（当時）の国営テレビ局であるR T S（ラジオ・テレビ・セルビア）からも「暴力や攻撃的なものが多い昨今のアニメの中で、池田会長の作品は友情、献身、自分を信じる心などの正しい価値観をもたらす非常に高潔な作品です」との称賛の声が寄せられました。

7枚目／**未来を生きる子どもたちへ**（6枚目の絵の裏に貼る）

池田先生の児童向けの執筆は童話だけにとどまりません。「いじめ」や「不登校」、「進路」など現代の少年少女が抱える悩みに真摯に向き合った著作も著し、未来を生きる子どもたちへエールを送りつけています。

池田先生は、童話などの執筆活動にかける信念を次のようにつづっています。

「その昔、世の中全体が貧しかった。それでも子どもたちは、食べたいおやつも我慢してでも、本を読みたがった。『いまの子どもたちは』と言うつもりはない。（中略）当時の大人たちに比べ、どれだけ子どもたちへの『精神の責任』を果たしているか。誰が真剣に考えるのか。いな、戦うのか。子どもに『偉大な夢』を贈るのは、私たち大人の責任である」

決意など